

## 「教育データ活用セミナー（入門編）」開催について

～データを味方に！学校で活かせる未来へのヒント～

令和8年2月2日（月）に、大阪市総合教育センターのシナジースクエアにて「教育データ活用セミナー（入門編）」を開催しました。セミナー当日は、総合教育センターが開発した「G-P分析図作成ツール」を活用して子どもたち一人一人の学力状況を丁寧に把握し、どのように指導改善へつなげていくのかについて協議を行いました。本号では、教育データ活用に関する現状とセミナー当日の様子をお伝えします。

### 学校現場における教育データの活用に関する現状

現在、大学の教職課程や教員免許状の要件に教育データの活用及び人工知能の内容の追加が検討される（※）など、学校現場における教育データの活用が最重視されています。

そこで調査分析グループでは、教育データ活用セミナーを開催する前に、先生方に協力してもらい教育データの活用に関するアンケートを抽出調査しました。

（※ 今後の教職課程や教員免許制度の在り方について（中間まとめ）より）

#### 教育データ活用に関するアンケート【回答数119件】

「次のうち、セミナーの内容として興味のあるものを選んでください。」（複数回答可）

● データ活用に関する理論	45
● データの集め方（目的に応じて、いつ、どのようなデータを集めればよいか）	47
● グラフやデータの読み取り方（データから成果や課題などが説明できるか）	41
● データをグラフで可視化する方法（どうやってグラフ化するか）	53
● 統計的な手法でデータを分析・検証する方法（説明している内容は統計的に有意か）	43
● データをもとに仮説を立てる方法	34
● 各種調査（全国学力・学習状況調査など）の提供データの内容や活用方法	37

「次のうち、ご自身でできることを選んでください。」（複数回答可）

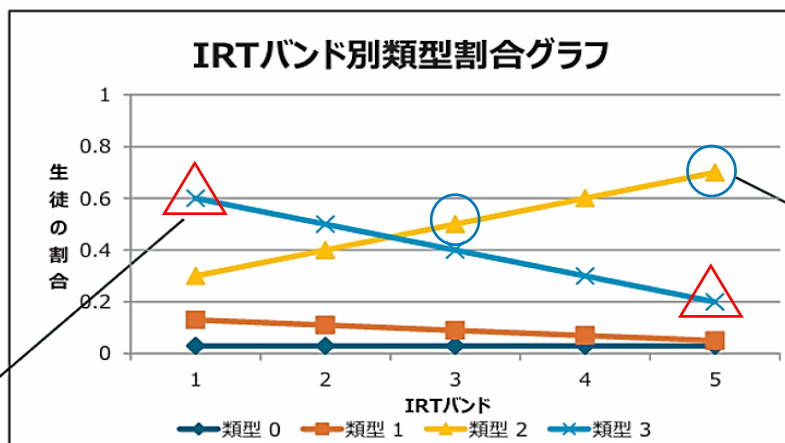
● 平均値と中央値の違いの説明	62
● 箱ひげ図の作成	17
● クロス集計	11
● 相関関係と因果関係の違いの説明	17
● 相関係数の算出	4
● 分散分析	5
● t検定	4
● 回帰分析	4
● ロジスティック回帰分析	2
● 共分散構造分析	4
● Excelのピボットテーブルを使ったデータの整理・分析	11
● どの内容もやったことがない	47

アンケート結果からは、先生方は教育データの活用について、理論や具体的な活用方法など広く興味関心を持っていること、また約半数の先生方は「平均値と中央値の違い」について説明することができる一方で、「どの内容もやったことがない」と回答する先生もいるという実態を掴むことができました。

調査分析グループでは、教育データを通じて先生方に子どもたちの学力状況を丁寧に見取り、指導改善へと活かすことができるようにG-P分析図を活用したセミナーを開催しました。

セミナー当日の様子はこちら

# 「G-P分析図」とは？



△に着目!!

IRTバンドに1に属する生徒の6割、またIRTバンド5に属する生徒の2割が「類型3（誤答）」と解答しています。

○に着目!!

IRTバンドに3に属する生徒の5割、またIRTバンド5に属する生徒の7割が「類型2（正答）」と解答しています。

↑  
類型2が正答

G-P分析図とは、学力層別に設問ごとの解答類型の割合を示したグラフです。横軸のIRTバンドが学力層にあたります。(IRTバンド1が学力に課題を抱える層であり、右に行くほど学力の高い層となります) この問題では「類型2」を選択している生徒が正答となりますが、IRTバンド1の生徒の約6割、またIRTバンド5の生徒においても約2割が「類型3（誤答）」を選択していることが分かります。

## 「教育データ活用セミナー(入門編)」当日の様子について



セミナー当日は、小学校学力経年調査の国語・算数の問題を例に、G-P分析図を活用した子どもたちの学力状況の見取りを行いました。例えば、国語の「こしらえた」という語彙の意味を問う問題では、学力の高い子どもたちであっても誤答の割合が一定数見られたことから、「日頃の授業から辞書調べや音読を丁寧に行うことが大切ではないか」といったことが確認されるなど、さらなる指導改善への話合いが熱心に行われました。

セミナー後のアンケートでは、「学校にあるデータを組み合わせて、子どもたちの状況をより詳細に分析してみたい」「G-P分析図を活用して、分析結果を学校全体へ共有したい」といった感想がありました。

私たち教員の「経験や勘」に教育データを組み合わせることによって、より多面的に子どもの実態を見取り、指導改善につなげることを実感できたよりよい学びの場となりました。

